

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473400651	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	ライクケア株式会社			
事業所名	サンライズ・ホーム瀬谷市民の森			
所在地	(〒246-0003) 横浜市瀬谷区瀬谷町5631-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和2年12月3日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月17日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>市民の森に囲まれ、横浜の自然を感じられる環境下に当施設はあります。 素敵な地域ボランティアの皆様にご協力頂き、音楽や楽しいレクリエーションを毎週予定しています（感染症の流行時は安全のため中止をします） 交流の苦手な方には無理強いをせず、お好きなように過ごせるよう配慮いたします。 個性を大切に、個別対応を心がけています。 認知症であっても安心して生活が出来るようご支援致します。 ご希望があればグループホームではありませんが、お看取りも行っています。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年12月18日	評価機関 評価決定日	令和3年3月3日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 当事業所は、相鉄線瀬谷駅よりバスで6分、最寄りのバス停「細谷戸第一」から徒歩で5分ほどの場所に位置している。周辺は戸建ての新しい住宅や、農地が点在する静かな環境である。事業所の裏手には瀬谷市民の森が広がり、近くの公園とともに散歩に適した場所になっている。法人は首都圏を中心に、有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅などを多数運営している。</p> <p>【理念の実践に沿った新たな取り組み】 理念に掲げている、『思いやりとやさしさとほほえみを（もって）、自分や自分の家族が入りたいと思うホーム作りを目指します』の実践から、1人の利用者をかけがえのない唯一の存在の方として、その方らしさを活かしたケアに取り組んでいる。 入居後、3か月を過ぎたころから体調に変化が見られ、それに伴い食欲の低下や発語が少なくなるなど活気もなくなってきた利用者に対して、職員でチームを組み、少しでもその方が健やかに、穏やかに過ごせるように声掛けの常時実行や、利用者の好きな買い物同行、食事の見た目の工夫、身体的な苦痛軽減のためのマッサージの施術依頼など、家族とも連携を取りながら様々な取り組みを行った結果、実践後は、その方に笑顔が増え、幼少の頃の話がされたり、感情を出して声が出るようになった事例がある。 この事例を今年の2月、法人内の事例発表会（今年は、コロナ禍のためオンライン開催）で報告している。法人内の他事業所の事例と共に上記事例が冊子となっており、取り組みが職員に周知されている。</p> <p>【日々の生活の充実】 新型コロナの感染対策で、外出レクやボランティアの受け入れなどができなくなった。家族と会えないことで利用者の日々の生活に影響が出ないようにと、オンライン面会や窓越し面会などを取り入れている。職員は外部の方への対応がない分、利用者とのゆっくり向き合える時間が増え、ボランティアに頼りがちだったレクリエーションや行事の際の余興などを主体的に行うようになった。また、一人では編みものができなくなっていた利用者が、職員と一緒に編み物をする事で再び取り組むようになっていく。職員は以前より落ち着いて仕事に取り組むことができていると感じている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	サンライズ・ホーム瀬谷市民の森
ユニット名	1F やわらぎ 2F かがやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見えるよう張り出し、常に当ホームの理念を確認している。職員個々に、住まわれる方にとって、その人らしいホーム作りを心がけている。	職員は理念を常に念頭に置き、日々のケアに当たっている。時にはその思いが強くなり、他の職員のケアの仕方に疑問を持ったり、意見の相違が出た場合は、ミーティングで話し合ったり、管理者との面談で自分の思いを話す機会を持っている。管理者は理念に立ち返り、職員が同じ方向を向いてチームでケアに当たることを指導している。昨年からはホームで理念である「その方らしさの追求」の実践をチームで取り組み、その結果を法人の事例発表会で報告している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご入居者様は旭台自治会に加入しており、ご希望があれば地域の活動に参加できる。現在は参加出来ていない。	新型コロナ感染症予防のため、昨年まであった地域の運動会への参加や、近くの幼稚園との交流なども今は途絶えている。散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、自治会の会長がホームの様子窺いに時々顔を出してくれる。地域の方で自分の認知症の進行を自覚してホームの見学に訪れ、入居を決めた方もいる。ホームから行事やレクの際に出る音などには近隣にお知らせをして理解を得ている。また、新型コロナ感染症予防で実現していないが、近くの特別養護老人ホーム「愛成苑」で行っている認知症カフェへの利用者の参加を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域貢献は出来ていない。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の際は、自治会の会長に参加頂き、施設の状況や地域情報を共有している。ご家族様にも参加を知らせ、気軽に参加できるよう配慮している（現在は書面での通達）</p>	<p>2か月ごとに開催している運営推進会議には家族、自治会長、地域包括支援センター職員、管理者、職員が参加をしている。新型コロナウイルス感染症対策として1月から大事を取り開催を控えていたが、その後は文書での報告になっている。家族には毎回お便りで参加をお願いしていたが、参加者増加には至っていない。自治会長には地域との懸け橋役として尽力を頂いている。</p>	<p>家族の運営推進会議への参加を引き続き呼び掛けると共に、会議への参加を希望する利用者をメンバーに加え、意見を伺うことを期待します。</p>
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>管理者は2020年より瀬谷区の地域密着型連絡会の役員をしており、瀬谷区や近隣の施設と介護施設ならではの情報交換など交流を持つようになっている。</p>	<p>担当エリアの中屋敷地域ケアプラザ以外の周辺の地域ケアプラザにも、管理者が近くの方のデイサービス職員と一緒に毎月顔を出して情報交換や関係づくりをしている。生活保護受給者の面接や医療費などの相談事で区的生活支援課職員と連携を取っている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての知識を深めるため、年に2回の研修を行っている。安全のための施錠はあるが、出たいと訴えがあれば都度解除している。	身体拘束適性化委員会は3か月ごとにリーダー会議の際に実施し、委員会の議事録を職員に周知している。委員会で出た課題を研修で取り上げ、職員間で共有している。玄関は以前、開錠していることもあったが、事業所前に幹線道路ができ、交通量が多くなってきたことから現在は安全確保のために施錠している。リビングの扉は通常施錠しているが、職員の配置が十分な時は開錠している。また、扉付近に「出たいときは呼んで下さい」と表示をしている。出たい素振りの方がいるのを職員に教えてくれる利用者もいる。2階のバルコニーは自由に出入りができるため、気分転換に外気に触れに出る方もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行い、虐待防止の知識向上に努めている。管理者は現場のラウンドを行い、不適切な対応がないかチェックしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修の実施で制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に説明を行い、不明な事があればきちんと回答するよう努めている。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とは密に連絡をとり、ご意見を伺うよう努めている。職員には全体会議を利用して共有し、ご要望に沿えるように心がけている。	毎月の「瀬谷市民の森便り」を家族に送付する際に利用者ごとに管理者が一筆を添え、生活や行事の様子を写真入りで伝えている。家族の要望に応じてメールや電話でコミュニケーションを取り、連携を図っている。家族との連絡は通常管理者や計画作成担当者が行っているが、今後は介護計画の見直し時の担当者会議に、家族の参加も検討したいと考えている。	
----	---	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月リーダー会議やユニット会議を設け、職員とは意見交換を行っている。個人面談も定期的に行っている。	開設当時から勤務している職員をはじめ、勤務歴の長い職員が多数在籍している。管理者は個人面談の他、夜勤明けや、遅番の帰る時間帯等にできるだけ機会を作り、個別の話に応じている。相談内容は多岐にわたっているが、ADLが低下した方の歩行介助をしていた職員の介助の仕方について疑問を持った職員から相談があった時には、ケアカンファレンスで話し合い、本社から専門的な知識を有する職員を派遣してもらい、正しい介助方法や、その方のADLの低下を防ぐ為にリハビリの仕方を学んだ。法人の資格取得支援や、産休や育休制度など取りやすい環境がある。産休制度を使い職場復帰した職員が在籍している。また、定年後の再雇用制度があり、働きやすい環境づくりをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を主体に、職員の労働環境改善に努めている。個々の事情に合わせた働き方が出来る職場作りを常に心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得制度があり、働きながら勉強できるようにシフトや仕事内容を調整している。OJTや外部の研修も取り入れている。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>瀬谷区の地域密着型連絡会に参加し、情報交換やネットワーク作りにも力を入れている。良いものを取り入れて、サービスの向上につなげている。</p>		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごとを入居前のヒアリングできちんと理解し、入居後に安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様には何でも相談して頂き、不安なく大切な方を預けて頂けるよう、とことん話を聞かせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回のケアプランは暫定としており、1か月から2か月後に本プランを立てて、より良いサービスが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の立場で考えられるよう職員に指導を行い、心から信頼される関係作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の立場になり、本当の家族同様にご入居者様に支援できるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活スタイルが維持できるよう支援している。電話や面会など気軽に出来る環境整備に努めている。	入居前の友人が家族経由で面会を希望して会いに来る方もいる。携帯電話を所持している方も数名いるが、次第に自分で操作することが難しくなっている。電話をしたいという方には、職員が手助けをして電話をかけている。職員は利用者が今までの生活で築いてきたことを大事にして支援することを心掛けているため、墓参りの同行や、編み物が得意だった方には、誕生日のプレゼントに毛糸を選び、編み物をする機会を作っている。年賀状の投函や、鉄道雑誌が好きな方やカップラーメンを好む方の購入の手伝いなどを継続的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交友関係は基本的には利用者同士にお任せしているが、トラブルに発展しそうな場合は職員が介入して円滑な関係が保てるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もお家族様やご本人様の相談を出来るだけ受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ヒアリングにて現在の意向確認をまめに行っている。意思疎通の難しい場合は、ご家族様やご本人の行動からお気持ちを察し、検討するようにしている。	職員と1対1になる散歩や入浴時に利用者の本音が出ることも多くある。汲み取った思いなどは個人記録に記載したり、計画作成担当者に伝えて介護計画に反映させることもある。看取り期の方にもできるだけ話しかけて意思の疎通を図り、聞き取った言葉を書き留めて職員で共有し、思いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や経験を聞き取り、ご要望の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	関わる職員同士で情報共有を行い、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のモニタリングやアセスメントでその方のニーズを見だし、ケアプランに反映している。個別のケアカンファレンスで情報交換し、ご家族様の意向も必ず伺う。	入居時は暫定的なケアプランを作成して見直しをしながら3か月で本プランを作成している。その後、通常は1年で見直しをしている。状態変化などがあれば、その都度プランの見直しをしている。ケアプランチェック表を用い、当日の担当者が毎日モニタリングをすることで、ケアの統一に繋がっている。ケアプランの見直しに当たって家族の意向を聞き取り、それに沿って担当者会議を行い、プランの作成をしている。家族の役割（利用者と一緒に外出をする）をプランに入れている方もいる。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランチェック表を作り、毎日モニタリングを行っている。月締めにはケアマネジャーへ状況変化の有無を報告している。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	さまざまな状況に対応できるよう他の施設と情報交換し、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時には自治会で手入れをしている花壇の観賞や、イベント時の贈り物を頂く機会がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の協力医療機関の内科往診の他、精神科や皮膚科の往診もできる。かかりつけの外部受診もスムーズに実施できるよう職員がマネジメントしている。	利用者全員が協力医療機関と契約をして月2回の往診を受けている。必要に応じて精神科や皮膚科の往診も受けられる。入院も想定し、入居前からかかっていた入院設備のある外部の医療機関を定期的に受診している方もいる。週1回、非常勤の看護師を配置して協力医の往診に立ち合い、医師やかかりつけ薬局との連携を図っている。また、利用者の健康相談や職員の医療面での相談ごとなどにも対応している。協力医や、看護師による24時間オンコール体制で急変時や看取り時に対応している。訪問歯科医が週1回、利用者の口腔ケアや、必要な治療に訪れている。ホーム内で、レントゲンや抜歯まで対応してくれる。訪問マッサージを受けている方もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1日の勤務、24時間オンコール対応可能。入居者様の日々の健康管理や受診、薬の管理や看護サマリーの作成も行っている。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>基本のご家族様にも対応をお願いしているが、入退院時の病院の情報交換は主に施設職員が行うよう努めている。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはご本人やご家族様と密に連絡している。ケアの方向性を医師やご家族様と話し合いを重ね、最後まで支援が出来るよう取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を家族に伝え、同意を得ている。重度化が進み医師が終末期と判断した時点で、家族と話し合い、看取りの希望を聞いている。家族がホームでの看取りを希望した場合は「看取り介護指針」を説明して、「看取りの同意書」を取り交わし、看取り介護に入っている。ベテランの職員が多く、看取りの経験も多数あるが、ホームとしての看取りの方向性の再確認や、ケアの統一のために、今年度10月、看護師による「本施設における看取りについて」のマニュアルを作成し、それに基づいた研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急や事故発生時の連絡や対応はマニュアル化している。研修も行い、慌てず対応できるように心がけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行っている。消防署や防火設備会社と連携をとり、万が一の時に備えて防災の知識向上にも努めている。	今年度は9月に日中想定 of 避難訓練と消火器を用いた訓練を行っている。消防署立ち合いを依頼しているがコロナ禍ということで実現できない為、防火設備会社の方立ち合いの下での訓練をしている。今年度中に夜間想定 of 訓練も予定している。現在は近隣の方の参加はないが、近隣に住む職員も多数いるため、「夜間緊急時駆け付け連絡網」を作成している。その他にも法人による災害時の詳細なマニュアルが整備されている。災害用備蓄は、飲料水や食料、コメなど職員分を含めて3日分を備えている。	「夜間緊急時駆け付け連絡網」を使ったシミュレーションや、法人の職員参集基準に基づいた参集訓練などを期待します。また、消防署から、近隣への応援を要請するようにとの話も出ています。以前は近隣の方が避難訓練に参加してくれることもあった為、再度呼び掛けることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修は定期的に行っている。	定期的な個人情報保護や接遇研修に加え、個別面談時に声の大きさや、馴れ馴れしい言葉遣いなどについて注意を促すこともある。管理者は、利用者とともに家族への接遇の大切さも職員に伝えている。利用者の呼び方は家族に確認をして名字だけでなく、その方の好む呼び方で呼んでいる。事務所内のノートパソコンの1台は管理者用、もう1台は記録などで使用、タブレット2台のうち1台はオンライン面会用、その他1台は職員の勤怠用で使用している。いずれもパスワードや、本社でネットワーク管理をしている。個人情報を含む書類は施錠管理しているほか、保険証などを外部に持ち出す際には、持ち出し用チェックリストで管理をしている。	現在は手書きの記録も、今後タブレットで入力していく予定があります。ノートパソコンや、タブレット等の持ち出しなどを含め、使用後は施錠できるところへ収納したり、使用中のタブレットの保管場所を限定するなどの管理が必要と思われます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がご自分のお気持ちを我慢せずになれるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を押し付けないよう気を付けて支援している。		

39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>お好きな衣類を着用して頂いている。訪問理美容を定期的に依頼して、染髪やカットも施設で行える。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事前のテーブル拭きや食器洗いなどの作業を職員と一緒に安全に行えるよう支援している。</p>	<p>主食と汁ものはホームで調理をしているが、副食は委託業者から調理済みの物が冷凍で届けられ、湯煎などで温めて提供している。パン好きな方が多いため、副食のメニューに合わせて朝食に「パンの日」を設けている。お寿司などは、利用者の希望に合わせてテイクアウトで購入している。誕生日は職員の手作りで、ゼリーやムースなど食べやすいデザートを提供することが多くある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事量や食事時間や食事形態を考えて、個別支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には毎回口腔ケアを行っている。歯科往診もあり、往診医と連携してケアの方法なども指導してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方に合った排泄方法で支援している。おむつの開始時にはご家族様に報告相談している。	排泄チェック表でパターンを把握して誘導する他、仕草などで察知して声掛けをしている。布パンツを使用してほぼ自立でトイレに行く方が4名、1日を通して全介助でオムツの方が3名、その他の方は、日中はリハビリパンツにパットを使用してトイレで排泄をしている。居室がトイレから離れていて転倒が懸念される方や、間に合わないことがある方にはポータブルトイレを置き、失敗がないようしている。夜間は睡眠を優先しているが、起きてきた方にはトイレ誘導している。トイレ内はパットなども見えるところに置かないような工夫をしている。トイレ掃除は1日2回職員が行い、手の触れるところはアルコール消毒して感染症防止に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医や看護師に相談し、自然排便できるよう支援している。適度な運動を促したり、腹部のマッサージも行っている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週2回の入浴が基本である。その日の体調に合わせて、無理せず安全に入浴できるよう努めている。季節によって、しょうぶ湯やゆず湯も個浴でゆったり楽しめるよう入浴支援している。</p>	<p>週2回、午前1名、午後2名が30分程度時間をかけて入浴している。夜間の入浴希望はないが、必要に応じて遅番がいる夜8時までに対応することもある。現在は入浴を好まない方や、同性介助を希望する方もいないが、気分や体調に合わせて無理のない入浴を支援している。入浴時利用者は職員と1対1の会話を楽しんだり歌を唄う方もいる。浴槽の湯はかけ流しで、汚れた時は都度交換している。端午の節句の菖蒲湯や、冬場は利用者の自宅になる柚子で、度々柚子湯を楽しんでいる。脱衣場にエアコンを設置して冬場のヒートショックに備えている。</p>	
----	----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごして頂き、夜間に安眠できるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬出来るよう、基本的に服薬時は見守りか、介助を行っている。服薬事故防止のために薬の研修、服薬チェックシートで職員間で数回の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のお好きな事や、生活の中でご自分の役割を見つけた方がスムーズにそれが行えるようケアプランに反映し、支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お買い物やお散歩などは安全に行えるよう努めている。ご家族様との外出時は協力し、施設側で車の手配などの支援も行っている。	天気の良い日は事業所付近にある「瀬谷市民の森」や、近くの公園に車いすの方も散歩に出かけている。コロナ禍以前は、年間の行事計画を立て、外食を兼ねた外出レクを行っていたが、新型コロナウイルス感染症対策で外出を自粛して買い物や外食などを控えている。この間もご主人が亡くなった方が、葬儀に参列するため万全の対策をして外泊をした。外出が困難になったり、散歩が苦手な方もいるので、利用者の生活に変化をつけるため庭に家庭菜園を作り、営繕担当の職員が手入れしている花や菜園を眺めたり、夏場は菜園の野菜と一緒に収穫して楽しんでいる。収穫した野菜が食卓に上がることもある。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理はご家族様にお願いしているが、ご本人のご要望があれば安全に所持出来るように職員間で共有している。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお手紙はお好きな時に利用できるように支援している。タブレットを使用したWEB面会も出来るよう環境整備を行った。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごして頂けるような共用空間作りに努めている。掃除・換気・騒音には気を使い、心地よく過ごして頂けるよう心がけている。	ベランダに面した掃き出し窓のあるリビングは、日当たりも良く明るい。共有部分は清掃が行き届き、空気清浄機付き加湿器を設置して感染症対策をしている。新型コロナの感染症対策以前から塩素水生成器を設置してノロウイルス対策などもしてきたが、現在は時間を決めた換気や日常清掃に加え、共有部分の手すりやドアノブなど手が触れるところは念入りなアルコール消毒を施している。リビングの壁の一角を作品の展示コーナーにして、利用者の作った季節に応じた作品を展示している。庭の植栽や花の手入れなど外回りの整備は、ドライバー兼営繕担当の職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやお部屋など、個々にお好きな場所で過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの家具や飾りなどで、今までと変わらない居心地の良い居室になるように工夫している。最近のご家族様が手作り家具などでプチ改装を行うことも増えている。	居室には、エアコン、ギャッジ付きベッド、クローゼット、照明、防災カーテンが備え付けで用意されている。利用者は自宅から使い慣れた椅子や机などの家具や、テレビ、カレンダーなどの生活用品を持ち込んでいる。家族が自宅の雰囲気近づけるため突っ張り棒や家具などで居室の造作をすることもある。また、位牌を持参している方もいる。職員の清掃を手伝う方や、自分でモップをかける方もいる。	

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆様の力量を把握して、様々な事に取り組めるよう支援している。		
----	---	--------------------------------	--	--

目 標 達 成 計 画

事業所名 サンライズホーム 瀬谷市民の森

作成日 2021年 5月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の参加者が少ない	ご家族様に会議へ参加を促し意見を頂けるようにする 利用者様も参加して頂く	運営推進会議とどのようなものか書面で知らせる。	1年間
2	35	避難訓練を行っているが、地域の方の参加がない	近隣の方にも訓練へ参加して頂けるようにしたい。	自治会長に相談して、災害時は協力してもらえつながりを深める。	1年間
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。